

27F-pm12

進行・再発大腸がんに対するトリフルリジン/チピラシル配合錠服用患者の予後因子としての好中球減少

○木村 美智男¹, 宇佐美 英績¹, 吉村 知哲¹ (¹大垣市民病院薬)

【目的】トリフルリジン/チピラシル配合錠 (TAS-102) は進行・再発大腸がんに対し、3次以降の治療として汎用されている。殺細胞性抗がん薬の中には、好中球減少が予後に影響することが示されているものもあるが、TAS-102 についての報告は少ない。今回、TAS-102 服用患者における予後因子としての好中球減少を明らかにするため検討を行った。

【方法】2014年8月から2016年5月の間に、大垣市民病院にてTAS-102を服用した患者を対象とし、全生存期間(OS)と好中球減少を後方視的に調査した。Kaplan-Meier法を用いて生存曲線を抽出し、Log-rank testにより生存期間を評価した。また、Coxの比例ハザードモデルを用いて多変量解析を行い、ハザード比(HR)とその95%信頼区間(95%CI)を算出した。

【結果】TAS-102服用患者41例のうち、18例(43.9%; absent群)は好中球減少を認めなかった。Grade 1-2の好中球減少が10例(24.4%; mild群)、Grade 3-4の好中球減少が13例(31.7%; severe群)であった。Absent群、mild群およびsevere群のOSの中央値(範囲)は120(67-179)日、184(94-274)日および299(192-404)日であった(Log-rank test : p=0.045)。多変量Cox比例ハザード分析によると、重篤な好中球減少を認めたsevere群のハザード比(HR)は0.412(95%信頼区間、0.181-0.937; p=0.034)であった。その他に有意な差は認められなかった。

【結語】進行・再発大腸がん患者に対するTAS-102療法施行におけるgrade3以上の好中球減少は、良好な予後因子と関係しており、治療効果の指標になると考える。